



# トイレから考える。

表参道駅のトイレから、公的なものと私的なものが入り乱れるゼロ年代の東京を考える。

森隆之

読者の皆さんは、街を歩いていてトイレに行きたくなったときはどうするだろうか。多くの人は、近くにあるデパートや本屋のトイレを借用しているのではないだろうか。かく言う私もその一人で、新宿を歩いていてトイレに行きたくなったときには、高島屋や伊勢丹のトイレをちよいとご借用している。なぜ高島屋や伊勢丹なのかというと、それらのトイレが駅のトイレなどに比べて圧倒的にきれいで使い心地がいいからだ。

しかし、先日街を歩いていて、それらのトイレに匹敵するほどきれいな駅のトイレを見つけた。それは、地下鉄千代田線表参道駅のトイレである。写真(中)がそのトイレの写真であるが、見てのとおり非常にきれいで、近くにある表参道ヒルズのトイレと比べても全く遜色のないレベルである。

表参道駅のトイレはなぜきれいなのか。この疑問に対する回答として最もわかりやすいのは、「表参道IIオシャレスポット」というイメージを崩さないためである」というものである。この回答は、ある意味で正しいのだろうが、説明不足の感が否めない。そこで、この論考では、「公/私の違い」という概念を加えて、この回答を深化させてみたい。



りも非常に整然としている。街を歩いている人たちを観察してみると、カッブルや家族連れ、外国人といった様々な人たちを見ることができた。たしかにここはさまざまな種類の人が訪れる「公的な場所」なのだろう。したがって、先の回答は、それなりに妥当なものであるといえるだろう。

では、「公/私の違い」という概念に基づいて考えると、なぜ表参道駅のトイレはきれいなのか。この疑問には、「表参道駅は多くの観光客や買い物客が利用する『公的な場所』であり、誰が使っても気分を害さないようにきれいにしておく必要があるからだ」と回答することができる。

うか。その答えを知るためには、トイレから出て街を眺めてみる必要があるだろう。ということで、私は居心地のいい表参道駅のトイレからしぶしぶ腰をあげ、表参道の通りに出てみた。

表参道駅を出てすぐ目に付くのは、やはり表参道ヒルズである。写真(小)がその写真であるが、建物も通

しかし、私はここで新たな疑問にぶつかる。表参道駅のすぐ近くには、JR原宿駅がある。これも表参道と同じくオシャレスポットとして有名だ。しかし、私の記憶によると、「原宿」は表参道とは違い非常に雑然として小汚い場所であったはずである。この違いは何なのだろうか。この疑問の答えを探るため、私は原宿へと足を伸ばした。写真(大)は、その原宿の写真である。やはり非常に雑然として小汚い場所であった。ここでも表参道と同じく

歩いている人たちを観察してみる。ここでもっとも目に付いたのは、いわゆる「原宿系」のファッションをした人たちである。人通りの多さはどちらも同じ程度なのに、表参道と比べて、



「均質的な人たちが集まっている」という印象である。

多様な人が集う表参道を「公的な空間」とするならば、似たような趣向をもっている人々が集う原宿は「私的な空間」であると言うことができるだろう。この整理はいかにも乱雑であるように思われる。しかし、もう一度写真(小)と写真(大)を見比べてもらいたい。

ここで私が指摘したいのは、両方の写真に写っている店の商品の並び方の違いである。表参道の店の商品は、シヨウインドウに納められ、きれいにディスプレイされている。一方、原宿の店の商品は、店の前方に大きくせり出し、その一部が公道にまでせり出している。

この事実の持つ意味は、外見的印象以上に大きい。なぜならばそれは、

「私的なものによる公的なものの侵食」であるといえるからだ。ここに至り、私は「表参道のトイレはなぜきれいなのか」という素朴な疑問から、より大きな疑問にぶつかることとなった。その疑問とは、「なぜ原宿では私的なものが公的なものを侵食することが許され、表参道では許されないのか」というものである。

ここで確認すべきなのは、近代社会の原則としては、「私的なものによる公的なものの侵食は許されない」ということである。

そうすると、「私的なものが公的なものを侵食する」という原宿こそがゼロ年代を象徴する街であるといえる。

では、なぜゼロ年代の原宿では私的なものが公的なものを侵食することが許されるのか。この問いに対する回答を考えるにあたり重要なのは、そこに集

う人の均質性であろう。

原宿には均質的な人々が集う。彼らは趣味や趣向が似ているため、同じようなものに関心を抱き同じようなものに不快感を示す。つまり、私の目には「私的なものによる公的なものの侵食」見えた光景も、彼らにはそうは見えなかったのではないだろうか。店頭の商品が公道にせり出していたとしても、それは「みんなの好きなもの」公的なもの」が公的な場所にあるだけなので、特に問題として意識されないであろう。

このことは、ゼロ年代の日本社会の特徴である「他者性の不在」が、具体的な都市の風景を変えつつあることを示している。本来は公共的な場所であった都市が、「同じような人が同じようなところに集う」という島宇宙化の影響を受け、私的な場所に変容してきているのである。

